

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(5月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2010年1～3月) ... 2
- ◆米国工作機械貿易統計(5月) 3
- ◆ドイツ工作機械主要統計(2010第1四半期) ... 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：製造業部門、11ヵ月連続で成長(6月) 4
- ◆米国：製造業設備稼働率は引き続き増加(5月) 5
- ◆米国：工作機械業界が新種の展示会開催で協力 5
- ◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移(6月) 6
- ◆独機械メーカーの知財権被害は売上の4%に 6
- ◆独レーザー機械業界、09年受注は4割減 6
- ◆中国向け独機械輸出、昨年も増加 7
- ◆独機械受注5月は61%増に 7
- ◆インド：製造業競争力ランキングでインドが2位 7

3. 工作機械関連企業動向

- ◆独工作機械大手のTrumpf、人員削減を回避へ 7
- ◆米国：Romi社、Hardinge社買収交渉を継続、TOBを3週間延長 8
- ◆ロシア：米MAG社のチタニウム型押出機、ロシアのBoeing社工場で稼働開始へ 8
- ◆米国：Hurco社、2010年度第2四半期売上高は前年比18%増 8

4. その他

- ◆ユーザー関連トピックス 9

5. 日工会外需状況(6月) 12

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(5月)

AMT(米国製造技術工業協会)及びAMTDA(米国工作機械販売協会)発表の受注統計(USMTC)によると、2010年5月の米国切削型工作機械受注は、1億6,756万ドルで前月比20.4%減、前年同月比63.2%増となった。

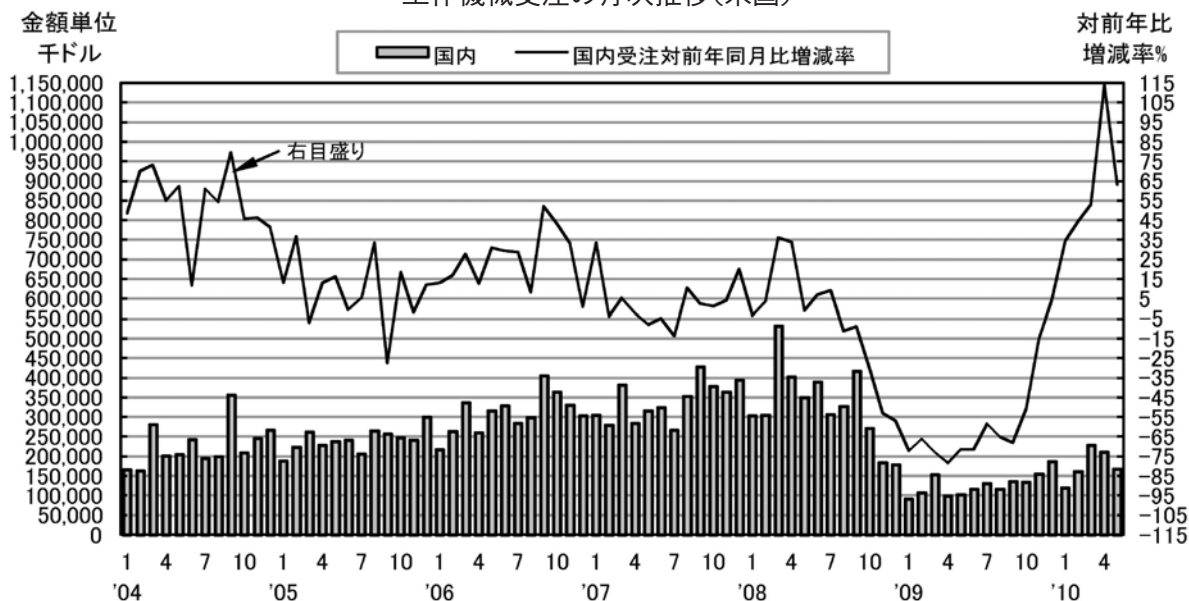
AMTDAのBorden専務理事は「2010年第1四半期において成長が継続した一方で、第2四半期に典型的な設備投資の波が見られたことは、驚くべきことでもない。さらにもう一ヵ月間実質受注を見ることで、2番底が来るという噂はあるものの、継続的な回復基調にしていることを確認できるであろう。年間の産業受注は、多くのソースが僅かに上方修正している。国会で特別減価償却が通れば、産業の成長はさらに加速するであろう。」と述べた。

(USMTCレポート 7月12日付)

米国工作機械(切削型)受注統計
(金額単位：千ドル)

年 月	受 注	
	台 数	金 額
2009年1月	694	91,390
2月	780	107,769
3月	963	153,364
4月	855	99,162
5月	814	103,608
6月	853	117,771
7月	907	131,996
8月	806	117,583
9月	920	136,133
10月	993	134,932
11月	957	156,807
12月	1,226	187,293
2009年累計	10,768	1,537,808
2010年1月	774	120,098
2月	922	160,547
3月	1,285	229,067
4月	1,252	210,399
5月	1,150	167,561
2010年累計	5,383	887,672

工作機械受注の月次推移(米国)



◆米国工作機械受注統計(地域別)

(単位: 百万ドル)

地域別		2010年5月 (P)	2010年4月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2010年累計 (P)	2009年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	切削型	167.56	210.40	-20.4	102.70	63.2	887.67	553.41	60.4
	成形型	10.78	20.82	-48.2	9.71	10.9	78.95	78.89	0.1
	計	178.34	231.22	-22.9	112.42	58.6	966.62	632.30	52.9
北東部	切削型	30.52	32.29	-5.5	26.05	17.2	145.85	117.61	24.0
	成形型	3.25	4.09	-20.4	2.43	33.8	13.30	13.59	-2.1
	計	33.78	36.38	-7.2	28.48	18.6	159.15	131.20	21.3
南部	切削型	28.78	27.65	4.1	11.59	148.2	139.30	69.97	99.1
	成形型	0.10	4.34	-97.8	2.06	-95.3	14.95	12.74	17.3
	計	28.88	31.99	-9.7	13.65	111.5	154.24	82.70	86.5
中西部	切削型	41.44	55.38	-25.2	24.67	68.0	245.65	153.34	60.2
	成形型	2.55	4.49	-43.2	3.51	-27.3	17.64	28.24	-37.5
	計	43.99	59.87	-26.5	28.18	56.1	263.29	181.58	45.0
中部	切削型	48.59	67.51	-28.0	19.68	146.9	246.32	134.05	83.8
	成形型	4.41	6.54	-32.7	1.32	233.1	25.30	14.65	72.7
	計	53.00	74.06	-28.4	21.00	152.3	271.62	148.70	82.7
西部	切削型	18.23	27.57	-33.9	20.71	-12.0	110.55	78.44	40.9
	成形型	0.47	1.36	-65.5	0.40	18.5	7.77	9.68	-19.7
	計	18.70	28.93	-35.4	21.10	-11.4	118.32	88.12	34.3

P: 暫定値 R: 改定値

四捨五入により合計値及び%は一致しない場合がある。

出所: USMTC

◆台湾工作機械輸出入統計(2010年1～3月)

台湾工作機械機種別輸出入統計(2010年1～3月)

(単位: 千USドル)

機種名	輸出			輸入		
	2010.1-3	2009.1-3	前年比(%)	2010.1-3	2009.1-3	前年比(%)
放電加工機	26,991	13,539	99.4	48,389	26,080	85.5
マシニングセンタ	161,433	112,634	43.3	6,642	9,029	-26.4
旋盤	99,765	113,262	-11.9	16,853	7,667	119.8
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	62,948	48,124	30.8	8,394	4,988	68.3
研削盤	30,938	18,339	68.7	11,401	10,843	5.1
歯切り盤・歯車機械	33,640	28,035	20.0	9,993	5,364	86.3
切削型合計	415,715	333,933	24.5	101,672	63,971	58.9

出所: 海関進出口統計月報

台湾工作機械国別輸出入統計(2010年1～3月)

(単位：千USドル)

輸 出					輸 入				
順 位	国 別	2010.1-3	2009.1-3	前年比(%)	順 位	国 別	2010.1-3	2009.1-3	前年比(%)
1	中国・香港	233,569	130,317	79.2	1	日 本	69,465	29,131	138.5
2	イ ン ド	26,503	13,978	89.6	2	ド イ ツ	13,168	20,451	-35.6
3	米 国	25,277	45,807	-44.8	3	米 国	8,348	6,281	32.9
4	タ イ	24,616	20,470	20.3	4	中国・香港	5,814	6,572	-11.5
5	ブラジル	24,548	15,467	58.7	5	韓 国	5,158	2,607	97.9
6	韓 国	19,648	5,221	276.3	6	ス イ ス	2,722	5,640	-51.7
7	トルコ	17,671	9,915	78.2	7	イ タ リ ア	2,238	565	296.1
	そ の 他	160,911	203,684	-21.0		そ の 他	12,505	9,921	26.0
	合 計	532,743	444,859	19.8		合 計	119,418	81,168	47.1

出所：海関進出口統計月報

◆米国工作機械貿易統計(5月)

- 2010年5月の米国工作機械輸出額(切削型)は、前月比27.9%増の116.8百万ドルであった。
2010年1～5月の輸出累計は、前年同期比7.4%増で、509.1百万ドルであった。
- 2010年5月の米国工作機械輸入額(切削型)は、前月比14.9%減で134.6百万ドルであった。
2010年1～5月の輸入累計は、前年同期比24.1%減で678.9百万ドルであった。

		2010年 5 月	2010年 4 月	5月/4月 増減率 (%)	2010年 1-5月	2009年 1-5月	前年比 増減率 (%)
切 削 型	輸 出	116.8	91.3	27.9	509.1	474.1	7.4
	輸 入	134.6	158.2	(14.9)	678.9	895.0	(24.1)
	収 支	(17.8)	(66.9)	(73.4)	(169.8)	(420.9)	(59.7)
成 形 型	輸 出	60.2	47.8	26.1	260.1	252.6	3.0
	輸 入	44.6	42.9	4.0	199.2	267.3	(25.5)
	収 支	15.6	4.9	220.0	60.9	(14.7)	(514.8)
合 計	輸 出	177.1	139.1	27.3	769.2	726.7	5.9
	輸 入	179.2	201.1	(10.9)	878.1	1,162.3	(24.4)
	収 支	(2.2)	(62.0)	(96.5)	(108.9)	(435.6)	(75.0)
N C 機	輸 出	74.1	63.2	17.2	332.8	309.4	7.6
	輸 入	105.2	128.6	(18.2)	555.9	766.8	(27.5)
	収 支	(31.0)	(65.4)	(52.5)	(223.1)	(457.4)	(51.2)

(注) ()はマイナスを表す。四捨五入により、合計値と一致しない場合がある。

出所：AMT - The Association for Manufacturing Technology

(AMT Report 2010年7月12日付)

◆ドイツ工作機械主要統計(2010年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)						前年比(%)		
	2006	2007	2008	2009	1Q09	1Q10	2008	2009	1Q10
生産合計	10,806	12,624	14,179	10,180	2,636	1,870	+12	-28	-29
機械合計	8,078	9,441	10,716	7,770	1,986	—	+14	-27	—
切削型	5,997	7,089	8,215	5,652	1,466	—	+16	-31	—
成形型	2,081	2,352	2,501	2,118	521	—	+6	-15	—
部品・付属品	1,995	2,328	2,537	1,619	454	—	+9	-36	—
設置・修理・メンテナンス	733	855	925	792	197	—	+8	-14	—
受注額	12,380	16,000	13,730	6,230	1,415	2,020	-14	-55	+43
内需	5,050	6,730	5,610	2,170	545	680	-17	-61	+25
外需	7,330	9,270	8,120	4,060	870	1,340	-12	-50	+54
生産額(サービス除く)	10,072	11,769	13,254	9,388	2,440	1,730	+13	-29	-29
輸出	7,055	7,759	8,206	6,033	1,511	1,129	+6	-26	-25
輸入	2,599	3,341	3,721	2,121	720	393	+11	-43	-45
国内消費	5,617	7,351	8,759	5,476	1,649	994	+19	-37	-40
輸出比率(%)	70.0	65.9	61.9	64.3	61.9	65.3			
輸入比率(%)	46.3	45.4	42.4	38.7	43.7	39.6			
従業員数(年平均)	65,044	66,369	70,839	69,614	71,996	64,090	+6.7	-1.7	-11.0
稼働率(年平均)	90.6	93.6	94.7	72.6		71.6			
受注残(年平均)	6.4	7.5	8.7	6.2		6.6			

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械輸出統計(2010第1四半期)

	金額（百万ユーロ）					前年比（％）			シェア（％）		
	2007	2008	2009	1Q09	1Q10	2008	2009	1Q10	2008	2009	1Q10
レーザー加工機、イオンビーム、超音波加工機	611.8	631.8	333.9	81.1	84.2	+3	-47	+4	7.7	5.5	7.5
電気加工機	72.1	63.3	44.6	15.9	12.0	-12	-30	-25	0.8	0.7	1.1
マシニングセンタ	1,288.3	1,301.5	944.1	232.9	134.8	+1	-27	-42	15.9	15.6	11.9
トランスファーマシン	143.3	119.6	149.4	21.6	7.5	-17	+25	-65	1.5	2.5	0.7
旋盤	770.8	844.8	595.6	139.9	115.3	+10	-30	-18	10.3	9.9	10.2
ボール盤	57.6	57.7	51.6	11.3	9.6	+0	-11	-16	0.7	0.9	0.8
中ぐり盤、中ぐりフライス盤	131.3	145.0	128.2	38.1	40.8	+10	-12	+7	1.8	2.1	3.6
フライス盤	389.3	396.2	285.2	86.9	47.2	+2	-28	-46	4.8	4.7	4.2
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	788.2	824.0	586.8	157.2	95.1	+5	-29	-40	10.0	9.7	8.4
歯切り盤	403.2	548.4	527.9	108.0	100.5	+36	-4	-7	6.7	8.8	8.9
金切り盤及び切断機	160.6	168.3	89.3	27.9	14.2	+5	-47	-49	2.1	1.5	1.3
その他の工作機械	46.2	96.2	71.8	9.9	16.0	+108	-25	+62	1.2	1.2	1.4
金属切削型合計	4,862.6	5,196.8	3,808.4	930.7	677.2	+7	-27	-27	63.3	63.1	60.0

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械輸入統計(2010第1四半期)

	金額（百万ユーロ）					前年比（％）			シェア（％）		
	2007	2008	2009	1Q09	1Q10	2008	2009	1Q10	2008	2009	1Q10
レーザー加工機、イオンビーム、超音波加工機	479.7	463.5	186.4	63.1	37.1	-3	-60	-41	12.5	8.8	9.4
電気加工機	101.3	85.7	42.3	11.0	8.9	-15	-51	-19	2.3	2.0	2.3
マシニングセンタ	397.3	443.8	216.6	70.2	33.5	+12	-51	-52	12.0	10.2	8.5
トランスファーマシン	52.8	71.7	34.0	7.8	4.6	+36	-53	-41	1.9	1.6	1.2
旋盤	603.7	658.5	342.5	137.6	56.3	+9	-48	-59	17.7	16.2	14.3
ボール盤	25.1	28.5	16.1	6.2	3.8	+14	-43	-39	0.8	0.8	1.0
中ぐり盤、中ぐりフライス盤	72.3	93.8	109.4	39.2	13.0	+30	+17	-67	2.5	5.2	3.3
フライス盤	93.3	114.4	96.0	29.2	10.9	+23	-16	-63	3.1	4.5	2.8
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	288.0	368.6	210.5	74.5	33.8	+28	-43	-55	9.9	9.9	8.6
歯切り盤	63.5	103.5	47.8	11.7	3.7	+63	-54	-68	2.8	2.3	0.9
金切り盤及び切断機	40.3	47.7	31.1	10.4	5.7	+18	-35	-45	1.3	1.5	1.5
その他の工作機械	11.1	16.1	14.8	6.9	1.7	+45	-8	-75	0.4	0.7	0.4
金属切削型合計	2228.4	2495.9	1347.5	468.0	213.1	+12	-46	-54	67.2	63.5	54.2

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：製造業部門、11 カ月連続で成長(6月)

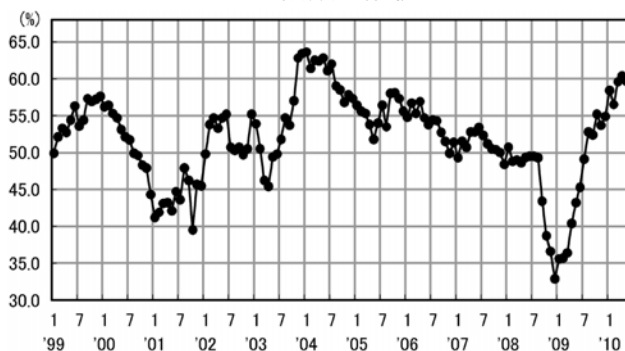
米サプライ・マネジメント協会（ISM）の購買管理指数（PMI：製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数）によると、2010年6月のISM指数（PMI）は56.2%と景況感の分かれ目である50%を上回り、製造業部門の活動も11ヵ月連続で成長した。一方、経済全体の動向はPMIが上昇・下降の分岐点41.2%を14ヵ月連続で上回り、経済成長を遂げた。

6月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。「製造業部門は6月に成長を続けたが、その成長率は鈍化した。新規受注と生産の指

数が伸び悩んだ結果、PMIも低下した。

なお、6月の製造業の景況感について、対象18業種中、次の13業種が「企業活動を拡大した」と回答している。プラスチック・ゴム製品、輸送用機械、印刷・関連サービス、コンピューター・電子製品、電気機器・家電製品・部品、紙製品、金属製品、

ISM 指数の推移



食品・飲料・たばこ製品、家具類、石油・石炭製品、非金属鉱産物、雑貨、化学製品。

ISMが発表した6月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2010年 6月指数	2010年 5月指数	備 考
ISM 指 数 (PMI)	56.2	59.7	5月比3.5ポイント低下。製造業は11ヵ月連続成長。6月のPMI (56.2%) は年率換算実質GDP成長率4.8%に相当。
生 産	61.4	66.6	5月比5.2ポイント低下。拡大の基準である50.4%を13ヵ月連続で上回った。10業種が成長を報告した。
新 規 受 注	58.5	65.7	5月比7.2ポイント低下。12ヵ月連続で増加した。13業種が成長を報告した。
受 注 残 高 (季節調整なし)	57.0	59.5	前月比2.5ポイント低下。9業種が増加を報告した。
サプライヤー納期	57.3	61.0	5月比3.7ポイント低下。11業種が長期化を報告した。
在 庫	45.8	45.6	前月比0.2ポイント上昇したが、3ヵ月連続の縮小。5業種が在庫増を報告した。
雇 用	57.8	59.8	5月比2ポイント低下。10業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	57.0	77.5	前月比20.5ポイント低下。9業種が上昇を報告した。
輸 出 受 注	56.0	62.0	前月比6ポイント低下。12ヵ月連続の増加。8業種が増加を報告。
原 材 料 輸 入	56.5	56.5	前月比横ばい。10ヵ月連続の増加。9業種が増加を報告した。

(ISM Manufacturing Report on Business 2010年7月1日付)

◆米国：製造業設備稼働率は引続き増加(5月)

2010年5月の設備稼働率(速報値)は、全製造業で71.5%、耐久財製造業で66.3%、機械製造業で66.1%となった。

前月比で見ると、全製造業では0.7ポイント、耐久財製造業では1.2ポイント、機械製造業では1.3ポイント夫々増加している。

一方、前年同月比で見ると全製造業では6.2ポイント増加している。(FRB Statistical Release G.17(419)/6月16日付)

◆米国：工作機械業界が新種の展示会開催で協力

米国工作機械メーカーの企業コンソーシアムは、米国工作機械販売協会と米国製造技師協会の協力を得て、「米国製造業を再活性化する」新種の展示会を企画している。

その展示会となる「インタラクティブ・マニュファクチャリング・エクスペリエンス (imX)」は2011年9月にラスベガスで3日間にわたって開催される。

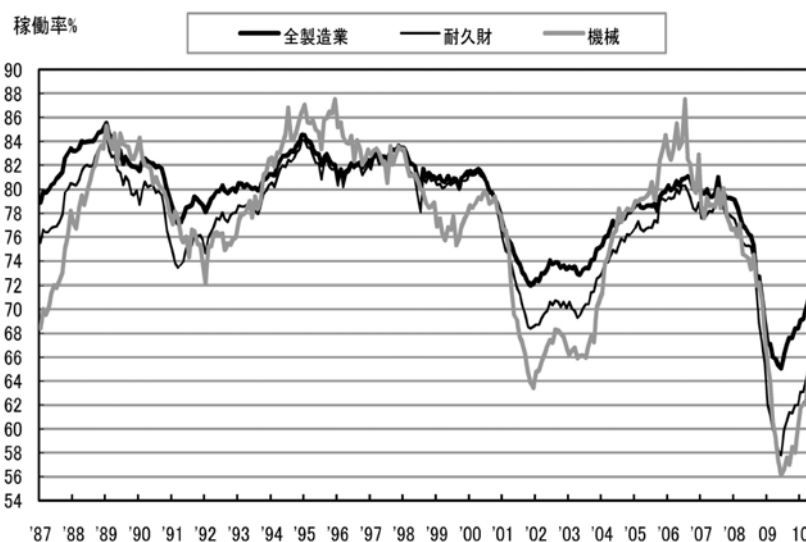
主催者によると、imXはコーポレート・オープンハウス、顧客訓練セミナー、顧客感謝プログラム、新製品展示イベントなどが開かれる。

主催者は従来の機器展示会に代わるショーを企画した背景として、展示会入場者が減少していること、出展コストが上昇していること、入場者による評価が芳しくないこと、技術展など新たなショーの形式が登場していること、などを挙げている。

(株)牧野フライス製作所の米国法人CEOのDon Lane氏は、工作機械メーカーの目標は「非常に焦点を絞ったプレゼン」で新たな機械加工技術を紹介する方法を見出すことであると語っている。

imXプロジェクトに賛同しているメーカー他社は、DMG Mori Seiki、Doosan、FANUC CNC America、MAG、Methods Machine Tools、Okuma Americaなどの各社である。

米国製造業の設備稼働率月次推移



こうした工作機械メーカーと2つの業界団体は、代替案を検討し、imXのビジネスモデルを創り出すのに2年以上を費やしている。

「imXは、顧客が会場のあるエリアで展示機械の選択肢を見て、価格と価値の比較を行い、最終的に適切な意志決定ができると思う」とOkuma America社のLarry Schwartz社長は言う。

顧客に自社のニーズと課題について話してもらうことで出展者はさらに直接的に、効果的に向き合うことができると期待している。

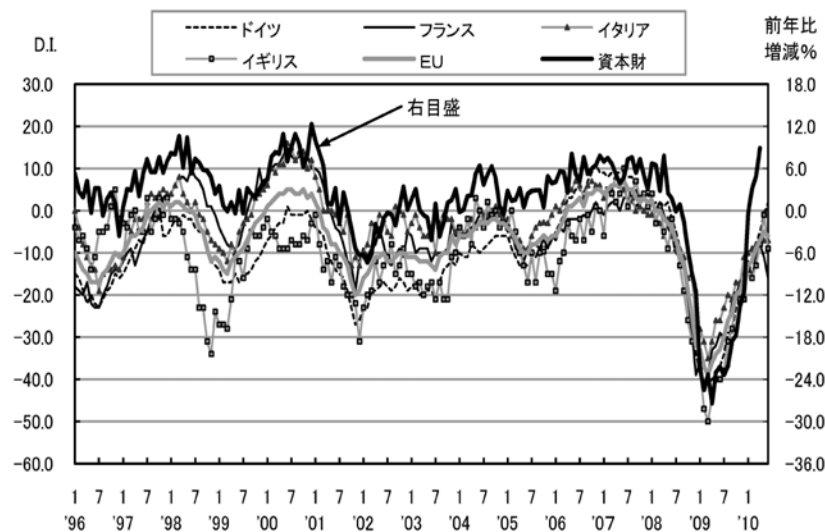
(American Machinist 電子版 2010年6月28日付)

◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移(6月)

欧州委員会が発表した2010年6月のEU主要国製造業景気動向指数(D.I.)によると、EU全体では1ポイント後退している。国別では、ドイツが3ポイント上昇したものの、イタリアは横ばいで推移、フランスは5ポイント、イギリスは8ポイント夫々後退している。

一方、ユーロ圏の資本財生産については、2010年4月は前年同月比で8.9%増となった。なお、2010年5及び6月の数字は未発表である。

EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移



(欧州委員会 Monthly Survey of Manufacturing Industry 及び Industrial Production 調査)

◆独機械メーカーの知財権被害は売上の4%に

ドイツ機械工業連盟(VDMA)が加盟企業を対象に今年実施した最新アンケート調査によると、製品やブランドの模造による被害額は平均で売り上げの4%に上った。昨年の業界売上高をもとに試算すると、被害総額は64億ユーロに達する。

また、アンケートでは企業の3分の2が自社製品を違法にコピーされたことがあると回答。そのうち45%は製品全体を模造された経験があった。最も被害が大きいのはプラントメーカーで、全体の20%を占めた。バルブ、原動機、合成樹脂・ゴム機械メーカーでもそれぞれ同9%に上っている。

ドイツの機械メーカーが模造品の被害を受けるケースが増加していることを受け、VDMAは先ごろ、知財権侵害対策の専門部会「AG Protect」を立ち上げた。製品やノウハウの模倣に対抗するための技術やサービスを加盟企業に提供している。(VDMA 2010年6月24日付)

◆独レーザー機械業界、09年受注は4割減

ドイツ機械工業連盟(VDMA)のレーザー機械・レーザーシステム部会が8日発表した2009年のレーザー機械受注高は前年比47%減の3億8,530万ユーロと激減した。景気悪化による顧客企業の投資凍結が響いた。ただ、09年10月以降は受注が急速に上向いており、12月単月の新規受注は前年同月比で2ケタ台の増加を記録。需要の回復が続いている。

09年受注の地域別内訳は国内が54.4%減の9,750万ユーロ、国外が44.2%減の2億8,770万ユーロで、国内の落ち込みが目立つ。生産高は50.5%減の2億3,500万ユーロだった。

09年受注の地域別内訳は国内が54.4%減の9,750万ユーロ、国外が44.2%減の2億8,770万ユーロで、国内の落ち込みが目立つ。生産高は50.5%減の2億3,500万ユーロだった。

レーザー機械の主力である材料加工レーザーの受注高は40%減の2億3,130万ユーロだった。国外受注が23.9%減の1億1,220万ユーロと減少幅が比

較的小さかったのに対し、国内は49.9%減の1億1,910万ユーロと大きく後退した。

輸出高は48.4%減の2億5,830万ユーロで、生産高に占める輸出の割合は前年より2ポイント増の71%に拡大した。レーザー機械関連サービス（付属・交換部品、保守管理など）も同様に大きな打撃を受けており、売上高は50.5%減の5億4,100万ユーロに半減した。

（MaschinenMarkt、VDMA 2010年6月8日付）

◆中国向け独機械輸出、昨年も増加

経済危機で景気が世界的に冷え込んだ昨年、中国は独機械業界の業績悪化を緩和した。ドイツ機械工業連盟（VDMA）によると、同国機械業界の2009年輸出高が前年比23%減と大きく落ち込んだなかで、中国向けは4%増の114億ユーロに拡大。米国向けを抜いて初めて国別の1位となった。今年第1四半期の中国向け輸出高も前年同期比7.5%増と好調で、機械輸出全体の11%を占めた。17日付『フランクフルター・アルゲマイネ（FAZ）』紙が報じた。

ドイツ製機械の需要を押し上げているのは、中国政府が景気対策の一環として進める大型インフラ事業。VDMA加盟企業3,000社の大半が中国へ製品を輸出しているうえ、現地に生産拠点を構える企業も550社に上る。

ただ、景気対策による特需はやがて縮小する。現地系の機械メーカーが実力をつけてきたこともあり、中長期的にみると中国事業はバラ色ではない。知財権侵害の被害も深刻で、VDMAが実施した加盟企業アンケート調査では、09年の1年間に発覚した製品やブランドの模造の79%が中国で行われたものだった。

また、VDMAのマnfレット・ヴィッテンシュタイン会長はFAZ紙に対し、中国政府が◇国内企業に手厚い補助金を支給している◇外国企業に高額なライセンスや証明書料金を課す◇経済協力開発機構（OECD）が定める輸出信用規定に違反してい

る、など、保護主義的な政策を行っている」と指摘。7月に訪中するメルケル首相がこれらの問題に何らかの対策を示すことに期待を示した。

（独紙Frankfurter Allgemeine Zeitungの新聞報道のみ、独語）

（Frankfurter Allgemeine Zeitung 2010年6月17日付）

◆独機械受注5月は61%増に

ドイツ機械工業連盟（VDMA）が1日発表した2010年5月の業界受注高は前年同月比61%増と大幅に拡大した。比較対象の09年5月は受注が最低水準に達していたという事情があるものの、需要が急速に回復しているのは明らかで、VDMAのエコノミストはロイター通信に対し、2010年通期の生産高予測を上方修正する考えを示した。

国外受注が68%増、国内も同50%増とともに大きく拡大した。大型受注による統計上のブレが少ない3カ月単位の比較をみても、3～5月期は前年同期を37%上回った。国内・国外ともに37%増えている。

（MaschinenMarkt 2010年7月1日付）

◆インド：製造業競争力ランキングでインドが2位

会計・コンサルティングの世界的大手である米デロイト トウシュートーマツは先ごろ、「2010年世界製造業競争力指数」を発表。1位は中国で、2位がインド、3位が韓国と続き、昨年と同様にアジア諸国が上位を独占した。「中国とインドは、何年にもわたって世界の製造業のリーダーとして君臨してきた。今回の調査でも、両国がさらに勢いを増していることが明らかとなった。今後数年間は、この2カ国がトップを保持するだろう」と語っている。（インドビジネスセンター 7月8日付）

3. 工作機械関連企業動向

◆独工作機械大手のTrumpf、人員削減を回避へ

業績悪化に悩む独工作機械大手のTrumpfは9日、

2011年末まで強制的な人員削減は実施しないことで労組側と合意した。対象はドイツ国内のディッティンゲン、ゲルリンゲン、ヘッティンゲンの3拠点。同社は当面の対策として、週当たりの労働時間を1.5時間短縮して給与をカットする方針。休暇手当やクリスマスボーナスなど特別手当については半減するものの、今後受注が回復した場合、一部を払い戻しする。ただ、生産体制の大幅な縮小に伴う人員の適正化を図るため、希望退職者を募集する考えだ。

(MaschinenMarkt 2010年6月9日付)

◆米国：Romi 社、Hardinge 社買収交渉を継続、TOBを3週間延長

ブラジルの工作機械メーカー大手、Industrias Romi S.A. 社は、米国の立て形・横形マシニングセンタ、CNC旋盤、研削工具のメーカー、Hardinge Inc. 社に敵対的買収を仕掛けていたが、6月下旬、1株10ドルの現金による株式公開買付の期間を7月14日まで3週間延長すると発表した。

前回のキャッシュ・オファー期間の延長（5月28日～6月18日）に続くもので、Romi社側によれば、6月18日時点でHardinge社発行済み株式の48%を取得したが、これは同社の買収提案に対するHardinge社株主の支持拡大を示すものだと言っている。

「Hardinge社株主の支持には勇気づけられる。同社は競争で販売収益が圧縮され、また、サプライチェーン管理などの問題で本年第2四半期の売上高予想を下方修正したと発表するなど、業績が低迷している。当社のキャッシュ・オファーはHardinge社の企業価値を上回る価格で同社株主に当面の流動性を提供するものだ」とRomi社のLivaldo Aguiar dos Santos CEOは語っている。

Hardinge社へのRomi社の買収攻勢は昨年秋に始まったが、Hardinge社取締役会が合併交渉に反対したため、今年3月にRomi社は1株8ドルのキャッシュ・オファーを提示したが、後に買収金額を1株

10ドルに引き上げ、また、今回の延長を含めオファー期間を6週間に延長している。

一方、Hardinge社取締役会がRomi社の敵対的買収の意図は不当な安値でのHardinge社買取りを図るもので、同社および同社株主の利益にならず、また、これまでにRomi社が買い集めた株式はHardinge社経営権の取得要件である同社発行済み株式の66.6%に達していないと指摘している。

(American Machinist 電子版 2010年6月23日付)

◆ロシア：米MAG社のチタニウム型押出機、ロシアのBoeing社工場で稼働開始へ

米MAG Industrial Automation Systems社の5軸ガントリ形押出機6台はロシアのUral Boeing Manufacturing (UBM) 社の工場に設置が完了し、ボーイング787ドリームライナー、ボーイング777などの旅客機向けの着陸装置コンポーネントの生産開始の準備が整った。

6台のチタニウム形押出機は、総額7,400万ドル超の機械発注34台の一部であるが、ロシアのベルフニャヤサルダに構えるUBM社のLanding Gear Manufacturing Center of Excellenceに設置された。

UBM社は、ロシアのチタニウム製造業者であるVSMPO-Avisma社とBoeing社との合弁会社である。

MAG社は世界工作機械最大手で、金属切削機械と航空宇宙業界向けの自動複合材料機器のグローバルリーダーである。

MAG社における最近の活発な受注は、航空宇宙製造市場の活況と同社の航空宇宙業界に対するソリューションの幅広さを反映するものとなっている。

MAG社は、ロシア、中国、欧州から今年すでに3,000万ドルを超える複合材料と金属加工システムを受注している。

(MAG社ホームページ 2010年7月2日付)

◆米国：Hurco 社、2010年度第2四半期売上高は前年比18%増

工作機械および制御機器メーカー、Hurco Com-

panies, Inc. 社の2010年度第2四半期（2010年4月30日期末）決算は、前年度同期の純損失28万1千ドルを上回る157万3千ドルの純損失を計上したものの、売上高は前年度同期比18%増の2,408万8千ドルの増収となった。

なお、2010年度上期の売上高は前年度上期比8%減の4,470万4千ドルだった。

2010年度上期の地域別売上高は、北米1,190万5千ドル（前年比25%減）、欧州2,735万8千ドル（12%減）、アジア太平洋544万1千ドル（188%増）だった。

また、2010年度第2四半期の地域別売上高は、北米580万4千ドル（前年度比6%減）、欧州1,534万2千ドル（18%増）、アジア太平洋294万2千ドル（131%増）だった。

2010年度第2四半期の増収には欧州、およびシンガポール、韓国、インド、中国などアジア太平洋諸国でのHurco社立て型マシニングセンタへの需要増が寄与している。

新規受注は2010年度第2四半期が前年度比69%増の3,058万9千ドル、2010年度上期が前年度比20%増の5,119万6千ドルだった。

Hurco社のMichael Doar CEOは「2010年度第2四半期の新規受注が第1四半期比48%増と、今回不況の中で、前四半期比では最大の伸びとなった事実」に勇気づけられている」と述べている。

（Hurco社プレスリリース 2010年6月4日付）

4. その他

◆ユーザー関連トピックス

中国：日本のダイカストメーカー、中国安徽省合肥に工場を建設

安徽省合肥市政府によると、日本のダイカストメーカーであるアーレスティがこのほど、同市の合肥経済技術開発区・管理委員会との間で、同開発区に自動車用のアルミニウム、マグネシウムダイカストの生産工場を建設する内容の合意文書を交

わした。投資総額は約3,000万ドルで、敷地面積は3ヘクタール。自動車のエンジン、トランスミッション用のアルミ・マグネシウム合金の鋳物鋳造や加工、アルミ合金建材の生産を行う。第1期部分の年産能力はアルミ製品4,700トン。2012年には1億6,000万元の生産額を見込んでいる。工場全体の稼働開始後にはアルミ製品の年産は1万3,000トンに拡大する見通しで、14年の生産額は4億2,000万元を見込む。

（新華社新華網ニュース 7月6日付）

中国：中国産大型旅客機C919、部品サプライヤー決定

中国産大型旅客機「C919」の製造を担当する中国商用飛機公司（中国商飛）は9日、中航工飛機起落架公司と共に、湖南省長沙で湖南博雲新材料股分公司、長沙シン航機輪利車公司、米国ハネウェル社の3社とそれぞれ車輪、ブレーキ系統などの供給を受けることで合意した。2社共に中国が独自開発した新型ジェットコンピューター機「ARJ21-700」部品のサプライヤー。中航工飛機起落架公司是中国の着陸装置メーカー最大手。「C919」は中短距離幹線航空機でエアバスA320、ボーイング373と同クラス。168機を生産予定。2010年中に技術・製造方案、部品やコア設備のサプライヤーを決め、2011年に生産に着手、2014年の試験飛行、16年の納入を目指す。08年11月に生産プロジェクトが始動し、2016年に耐空証明を得る予定。

（新華社新華網ニュース 7月12日付）

中国：瀋陽機床、開発プロジェクトに2,320万元の補助

瀋陽機床股分有限公司はこのほど、同社と子会社である瀋陽機床有限公司が計画する旋盤加工に関する6件の開発プロジェクトについて、中央財政から2320万元の補助を得たと発表した。各プロジェクトが国の審査に合格してから研究開発コストと相殺するため、各期の利益には影響しない。

（新華社新華網ニュース 7月13日付）

インド：トヨタ、2012年より「エティオス」用エンジンの生産を開始

トヨタ自動車は7月6日、来年初めの発売を予定している新開発小型車「エティオス」用基幹部品の生産計画を発表した。「エティオス」は、トヨタがインド自動車市場に初めて投入する小型車で、カルナタカ州バンガロール（ベンガルール）近郊に320億ルピーを投じて建設するインド法人トヨタ・キルロスカ・モーターの第2工場で2010年末より生産、来年初めにも発売する予定。「エティオス」用基幹部品を生産するのは、インド部品法人のトヨタ・キルロスカ・オート・パーツ（TKAP）株式構成はトヨタ64%、豊田自動織機26%、キルロスカ・システムズ10%。TKAPは「エティオス」生産開始に伴って、2012年秋よりエンジンを年間約10万基、2013年年初よりトランスミッションを年間約24万基生産する。投資額は、約90億円を見込んでおり、新規雇用は約500名の予定。トヨタはTKAPで「エティオス」用の基幹部品を生産することにより、車両だけでなく、基幹部品についてもインドを重要な生産拠点と位置づけていく方針。（インドビジネスセンター 7月7日付）

独金属製造・加工機械大手のSMS、09年受注半分に以下に

金属製造・加工機械大手のSMS（デュッセルドルフ）が9日発表した2009年12月通期の新規受注高は23億4,100万ユーロで、前年の52億8,800万ユーロから56%減少した。経済危機の直撃を受けた格好。経営陣によると、景気悪化の影響が波及したのは機械業界の他の分野よりも遅いため、市場が安定回復に向かう時期もその分、遅くなる見通しという。

売上高は38億9,000万ユーロで、8%増加した。好況期に獲得した受注の規模が大きいことがプラス要因となった格好で、税引き前利益も14%増の2億3,400万ユーロに拡大している。09年末時点の受注残高は前年同日を27%下回る46億ユーロだった。

今年は売上高が約30%減の30億ユーロに縮小し、税引き前利益も同程度の比率で落ち込むとみている。新規受注は26億ユーロを見込む。需要はインドと中南米が好調で、中国は緩やかな成長にとどまるとの予想だ。従業員については正社員の雇用を維持するとしている。

（Press Release 2010年6月9日付）

独自動車部品大手が風力発電市場に参入

自動車部品大手の独ZF Friedrichshafen（フリードリヒスハーフェン）は17日、風力発電用ギアボックス市場に参入すると発表した。米ジョージア州ゲインズビルに工場を設置して2012年初頭から操業を開始、長期的に年2,000基以上を生産する計画だ。すでに風力発電タービン大手のVestasに製品を供給することで合意しているほか、保守点検事業も立ち上げており、同社は製品とサービスの両面から風力発電市場の開拓に乗り出した。

ゲインズビルにはすでにZFの工場があり、風力発電ギアボックス工場はその近くに設置される。投資規模は約9,000万ドルで、雇用は当初200人を予定している。売上高は年2億ユーロ以上を見込む。

ZFは主力の自動車向けのほか、船舶、鉄道車両、航空機向けの駆動装置も手がけており、これら分野のノウハウを生かして風力発電市場に参入。事業の多角化を推し進める。

風力発電向けの保守点検に関しては昨年、独ドルトムントにサービスセンターを立ち上げた。同様の拠点を今後英国、スペイン、イタリア、北米にも設置し、2012年から様々なブランドおよびタイプのギアボックスを対象にサービスを提供していく。2014年には売上高で5,000万ユーロを目指す。将来的には急速に成長する中国とインドでも保守点検事業を立ち上げる意向だ。

（Press Release 2010年6月17日付）

スイスの風力タービンメーカー、ルーマニアに工場

風力タービンを手がけるスイスのウィンデックスは、ルーマニア南東部コンスタンツァに工場を建設する。現地メディアファクス通信が16日報じた。

ウィンデックスのルーマニア現地法人のシミオン社長によると、新工場への投資額は2,000万～2,500万ユーロを見込んでいる。今後2、3カ月以内に着工し、工期は約1年を要するという。

ルーマニアではドブロジャ地方を中心にエネルギー関連の投資が相次いでいる。チェコ電力大手CEZは総額11億ユーロを投じてフンティネレに240基の風力タービンを設置するプロジェクトを進めており、これまでに70基を設置した。スペインのエネルギー大手イベルドローラは、2017年までに風力発電ファーム50カ所（総発電能力1,500メガワット）を建設し、国営送電会社トランスエレクトリカに電力を供給する契約を結んでいる。このほか、ポルトガル電力公社（EDP）や伊エネルもそ

れぞれ風力発電プロジェクトを進めている。

（Actmedia News Agency 2010年6月15日付）

カヤバ工業、スペインに新工場

KYB（カヤバ工業）はこのほどスペインのナバラ州に自動車用高機能油圧緩衝器（ショックアブゾーバー）の新工場を完成させ、納品を開始した。同社はスペインにすでにパワーステアリングポンプ工場を持ち、今回は2番目の工場となる。

独業界サイトの報道によると、ショックアブゾーバー工場の生産能力は年100万個。需要拡大による増産にも迅速に対応できるという。同工場の製品はアウディ、PSA プジョー・シトロエン、BMWなどに供給される。

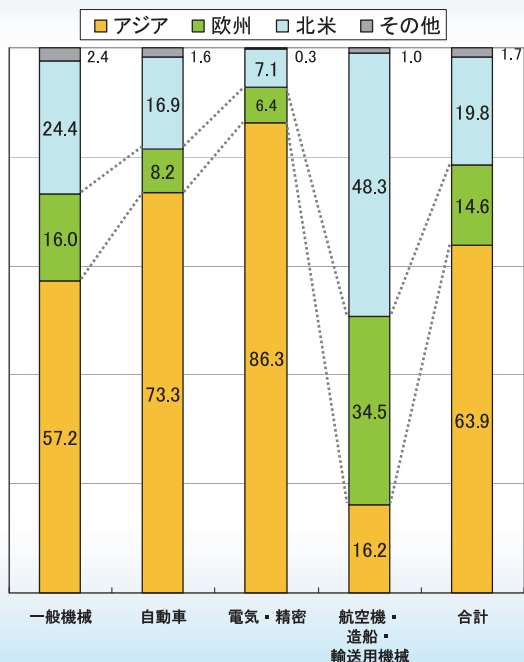
同紙によると、KYBはショックアブゾーバーを年約5,500万個生産しており、市場シェアは新車用の一次部品で25%、交換部品市場では約20%を確保している。

（reifenpresse.de 2010年6月15日付）

5. 日工会外需状況(6月)

1-6月累計の外需

(1) 業種別に見た主要3極の構成比(1-6月累計)



出所: 日本工作機械工業会

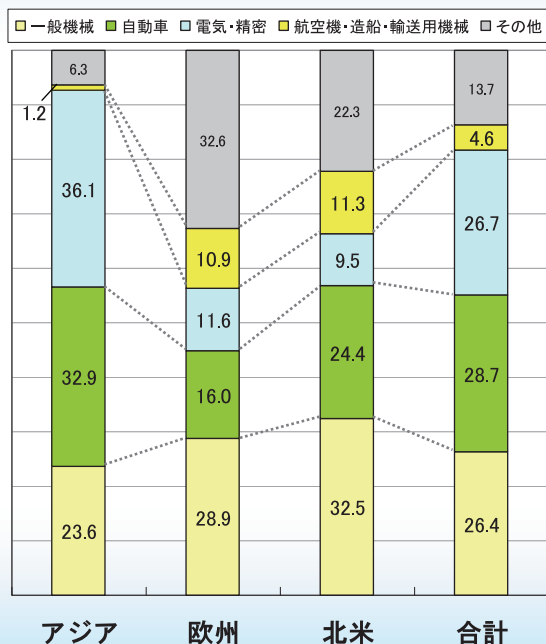
○主要業種に占めるアジアの割合は、一般機械が6割弱、自動車が7割強、電気・精密は9割弱と高い割合を占めている。

○一方、航空機・造船・輸送用機械は北米が5割弱、欧州で3割強と、欧米で8割強を占めている。

○北米と欧州を比較すると、欧州の回復が遅れていることもあって、すべての業種で北米が欧州を上回っている。

1-6月累計の外需

(2) 主要3極別に見た業種別構成比(1-6月累計)



出所: 日本工作機械工業会

○アジアでは、電気・精密が最も高い割合を占め、次いで自動車、一般機械の順となっており、航空機・造船・輸送用機械の占める割合はわずかである。

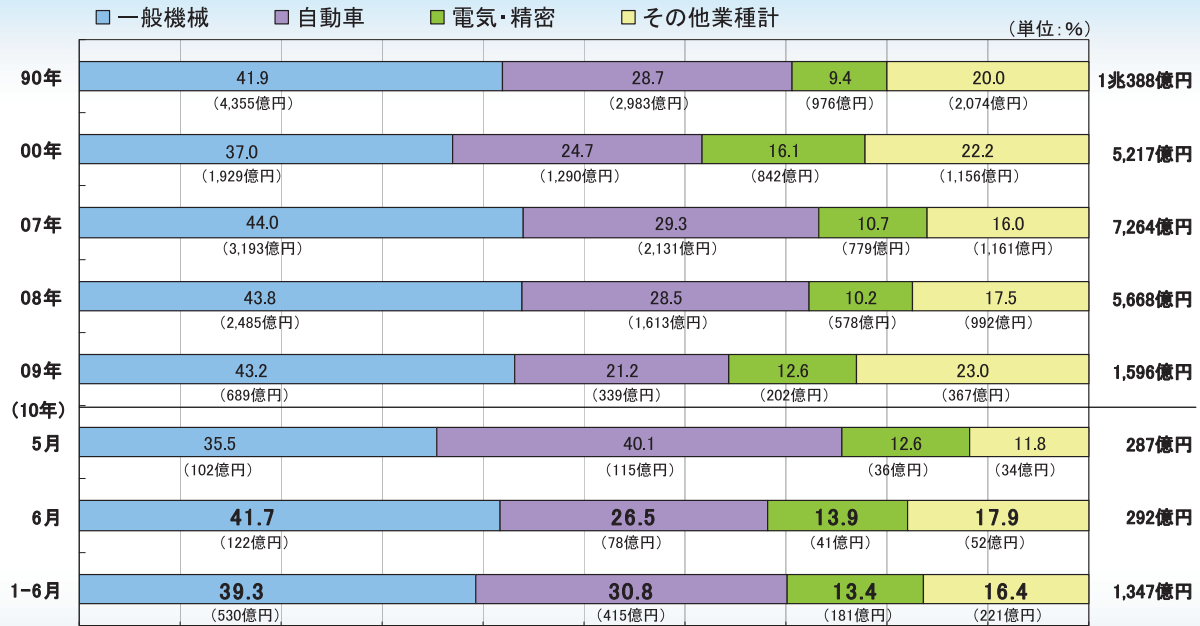
○欧州は、一般機械が最も高いウェイトを占め、次いで自動車、電気・精密、航空機・造船・輸送用機械が10%台の割合となっている。

○北米は、一般機械が最も高く、次いで自動車が高いウェイトを占めた。

ボーデンAMTDA専務理事コメント(5月分)

第1四半期で継続的に上昇を示したが、第2四半期は季節要因等で浮き沈みが起こる。5月は落ち込んだものの、6月は再び上昇するものと考えている。各指標も年間の予測値を上方修正しており、政府の対応次第ではより大きな伸びも期待できるだろう。

受注内需 主要業種構成比の推移

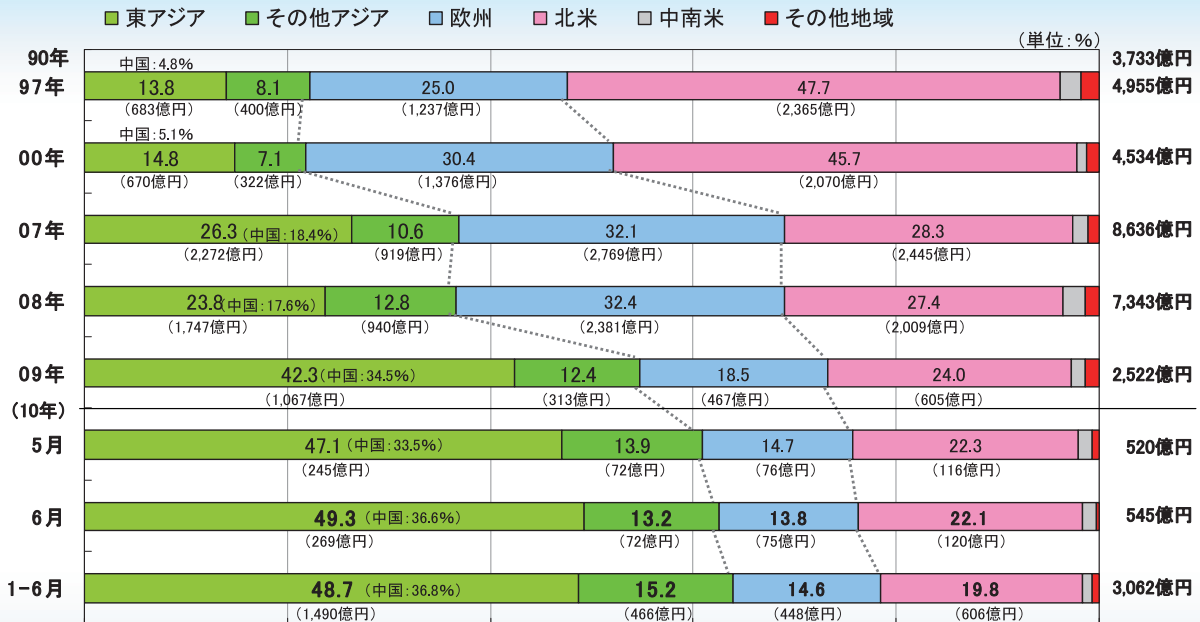


出所: 日本工作機械工業会

6月は、5月にスポット受注のあった自動車(△13.6Pt)の割合が減少し、受注で増加を示した一般機械(+6.2Pt)、電気・精密(+1.3Pt)が増加を示した。

1-6月累計を09年と比較すると、自動車の割合が高くなっており、3割を超えた。

受注外需 地域別構成比の推移



出所: 日本工作機械工業会

6月は、5月に比べ東アジア(+2.2Pt)の割合が増加を示したが、大きな変化は見られていない。

1-6月累計を09年と比較すると、アジアの割合が09年よりも拡大している。